

2014年3月2日 主日礼拝説教（要約）

聖書 ルカによる福音書3章21～22節

説教「わたしの愛する子」

日本キリスト教会鶴見教会牧師 高松牧人

洗礼者ヨハネは、集まってきた人々にこれから来られる方は自分よりも優れた方で、自分はその方の履物のひもを解く値打ちもない者であること、またその方は水ではなく、聖霊と火で洗礼をお授けになるということをお告げしていました。ヨハネの話聞いた人々は、大いなる恐れと期待をもってその方の出現を待ちました。そのお方は、いつ、どこから、どんなふうにして登場されるのか。ところが、そのお方は人々が洗礼を受けていたとき、すでにそこにおられたのです。

いったいどうして、主イエスが罪の赦しのための悔い改めの洗礼を受けなければならなかったのでしょうか。主イエスのどこに赦されなければならない罪があったのでしょうか。けれども、罪を悲しみ、悔い改め、洗礼を受ける人々に混じって主イエスはおられたのです。ヨハネよりも目立つ仕方ではなく、ヨハネを押しよけるようにでもなく、罪を悔いる民衆の中に、罪人の一人として立ってくださったのです。

「イエスも洗礼を受けて祈っておられると」とルカは書いています。洗礼の場面で、主イエスが祈っておられたことを伝えるのはルカだけです。ところで、ルカ福音書は「祈りの福音書」と言われるほどに祈りの場面が多く、ルカの物語る主イエスの生涯は祈りに貫かれています。祈りにおいて、主イエスは父なる神のご意思とご自身の使命とを繰り返し問い、確認しながら歩いていかれるのです。

主イエスは忙しい宣教の日々の中で、しばしば人里離れた所に退いて祈りの時間をもたれました（5：16）。十二人の弟子たちを選ぶときにも、主イエスは「祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」（6：12）のです。こうした絶えざる祈りは、十字架の前に、汗が血の滴るように地面に落ちたというあの夜の祈りへとつながり、十字架上での「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」（23：34）という執り成しの祈りに向かっていくのです。

主イエスが洗礼にあたってどのような祈りを祈っておられたかは分かりませんが、主は私たちと徹底的に共におられ、私たち人間の悲しみや苦しみを、誰よりも深く受け止めながら祈っておられたことは確かです。ここに主イエスの私たちと共にある歩みが始まり、私たちと共にある祈りが始まっているのです。

洗礼を受けて祈っておられた主イエスに起こったこととして、三つのことが書かれています。第一は、天が開けたということです。天が開けるとは、預言者に幻が示され、預言活動を始めたところに使われる表現です（エゼキエル1：1）。つまり、今起こっている出来事が神から出ているということを示しています。神が臨み、新しい御業を始められたことを証しています。

第二に、「聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降ってきた」とあります。祈りは聞き届けられました。そして神そのものにほかならぬ聖霊が鳩のように見えたと言うのです。ただ鳩のようにというのではなく、「目に見える姿で」とルカは書いてい

ます。聖霊が鳩になったわけではなく、鳩が舞い降りるかと思われるような、目に見える現実として、神の霊が主イエスを捕えたということでしょう。この時初めて、主イエスが霊的存在に変えられたわけではありません。主イエスは聖霊によって処女マリアに宿られた方です。しかし、その主イエスにここで改めて聖霊が注がれ、神の霊の目に見える働きが始まったと言うのです。このあと、主イエスは「聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになり」(4:1)、「霊の力に満ちてガリラヤに帰られた」(4:14)のです。そしてナザレの会堂で「主の霊がわたしの上におられる」(4:18)という預言者の言葉を読み上げ、それが今日ここに成就したと告げられました。

さらに第三に、天からの声が聞こえたとあります。ここに聞こえた御声は、まず詩編2:7の言葉と関連していると言われます。「お前はわたしの子、今日わたしはお前を生んだ」。この歌は、古来、王の即位を喜ぶ歌としてうたわれ、また真実な王が神から与えられる約束を歌ったものとして愛されてきました。主イエスはそのようなまことの王として、天の神によって立てられたのです。けれども、この天の声にはもう一つイザヤ42章の言葉も深く関連していると言われます。「見よ、わたしの僕、わたしが支える者を、わたしが選び、喜び迎える者を。・・・彼は叫ばず、呼ばわらず、声を巷に響かせない。傷ついた葦を折ることなく、暗くなっていく灯心を消すことなく、裁きを導き出して、確かなものとする」(42:1~3)。

ここにうたわれている主の僕の姿は、この世の王の姿、すなわち権力を振りかざし、自己を巧みに宣伝する生き方とは違います。この世の王たちが知ることも悟ることもなかった道です。主イエスは神の御子であり、神に立てられ遣わされる王ですが、その生き方はイザヤ42章がうたう僕の道以外の何ものでもありませんでした。真実に仕えることによって私たちを救われたのです。主イエスはこのような僕の道を今歩み出されませぬ。その出発を天の神はよしとされます。洗礼は主イエスの宣教派遣式でした。

主イエスに注がれた聖霊は、主イエスに呼び集められ、主イエスにつながる私たちにも注がれています。パウロが言うように、「神は『アッバ、父よ』と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった」(ガラテヤ4:6)のです。それならば、私たちも主イエス・キリストに結びあわされた者として、主イエスの赦しと執り成しの中で「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」との御声を聴くことがゆるされているのです。